



- JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より
京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から京都バス40系統(京都産業大学ゆき)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約10分)、「地球研前」下車スグ。
 - 京阪「出町柳駅」より
叡山電鉄鞍馬線に乗り換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。
- ※マイカーの利用はご遠慮ください。

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)
協力・柳々堂、日月餅、ISOLATION UNIT、齋藤さだむ、川崎仁美(現代盆栽)、ロク、CAFE MILLET

お問い合わせ 環境思想セミナー担当 鞍田(くらた)
tel.075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所(地球研)
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
http://www.chikyu.ac.jp

最終回 エピローグ—そこに在るもの

尹熙倉 × 森桜 × 鞍田崇

あたりまえの存在の深みへ

「大切なことは、特別なことよりも、むしろありふれたことの中にある気がしています。」

作品からの一方向の主張でなく、観る人の意識に応じて、作品が語りかけたり、時には黙したりしても良いと思うのです。「在ること」と「無いこと」の往還。かえってその方が、人の意識の深いところと繋がることができると思うからです。」——尹熙倉

そこに在るもの。日々の暮らしの中でもっとも近くに在るもの。もっとも近くに在りながらも、決して表立つことのないもの。たしかにそこに在るもの。ただし、つねに背景としてそこに在るもの。そして、ひとたびそれに注目し、それについて語り出した途端、あとかたもなく消え失せてしまうもの。

「そこに在るもの」という名のもとに、陶で作った四角い形に託して尹熙倉さんが一貫して追求してきたのは、そうした存在です。

どこまでもあたりまえのものであって、あたりまえで「ない」ものに目を奪われがちな日々の経験の中では、いわば脇役にどまりつづける存在。尹さんの言葉を借りれば、「やる気のない」存在（「やる気のない庭」をめぐって多摩美術大学紀要第23号2008）。しかしそんな存在こそが、私たちにとってもっとも身近で親密なものではないでしょうか。

それはまた、「環境」の在りよう、暮らしの中でのその出会われ方を示すものでもあるような気がします。考えてみれば、環境のそうした本質をゆがめることなく、現代社会における環境との関わり方のあるべきカタチを探ることがこの連続レクチャー・シリーズのねらいでした。

本シリーズ最終回である今回は、尹熙倉さんと彼の優れた理解者である森桜さんをお招きします。

尹さんとの仕事、とりわけ建築空間とのコラボレーションの企画を数多く手がけてこられた森さんは、尹さんの「素材を見極める鋭い皮膚感覚と、空間を読み解く高い身体能力にいつも驚かされてきた」と言います。

今回は、お二人といっしょに、尹さんの作品世界をたどりつつ、本シリーズの意図をあらためて想起し、いまこの時代だからこそ語られるべき環境との関わり方を探っていききたいと思えます。

あたりまえの存在の深さと豊かさを確かめること、それが最後のテーマです。

（企画担当 鞍田崇）

日時・2010年9月24日（金）15時～17時

会場・総合地球環境学研究所・講演室

申込不要／聴講無料（定員120名／14時より受付開始）

■ 森桜 MORI Sakura
アート・コーディネーター、森オフィス代表

1965年千葉県生まれ、1988年筑波大学芸術専門学群総合造形コース卒業（山口勝弘と河口龍夫に師事）1988-94年西武百貨店美術部勤務、1996年森オフィス設立。以後、美術や建築の展覧会企画や本の編集等にかかわる。展覧会の企画に「memento mori」（京都・法然院 2004）、「堀部安嗣の3つの家と3つの本」（東京・南洋堂書店 N+ 2005）、「聴竹居との出会い—栗本夏樹・漆芸展」（京都・聴竹居 2009）、講演会の企画に「新・前川國男自邸セミナー」（東京・新前川國男自邸 2010）、本の編集に『土谷武作品集』（美術出版社 1997）など。



photo by Saito Sadamu

■ 尹熙倉 YOON Heechang

美術家、多摩美術大学准教授
1963年兵庫県生まれ、1988年多摩美術大学大学院修士課程修了、1995-96年文化庁芸術家海外派遣研修で滞英、1997年英レスタチャーのラフポロウ美術大学と煉瓦工場で滞在制作、2010年文化庁の派遣により大英博物館で調査。「四角」という形と「陶」という素材にこだわりつつ、立体や陶粉による絵画を制作している。主な個展に、「呼吸する壁」（岐阜・ギャラリーキャプション 1993）、「そこに在るもの」（静岡県立美術館 1997）、「何か」（東京・ギャラリー小柳 2000）のほか、近年の展覧会に「素景」展（銀座・資生堂ギャラリー 2006）、「余白の美」展（静岡県立美術館 2009）、個展「はざかい」（岐阜・ギャラリーキャプション 2009）など。また建築空間でのアートワークに「兵庫大学」（設計 竹中工務店 兵庫・2001）などがある。



■ 尹熙倉と森桜の仕事

展覧会として「尹熙倉」展（東京・ガレリアアピターレ 2005）、「尹熙倉」展（大阪・日月餅新町店 2010）のほか、作品集として『Sound of Silence』（静寂の音の会 2005）、パブリック・アートとして集合住宅「アピターレ玉川田園調布」（設計 堀部安嗣 東京 2003）と「KEYAKI GARDEN」（設計 堀部安嗣 東京 2008）での彫刻設置など。

■ 鞍田崇 KURATA Takashi

哲学者、総合地球環境学研究所（地球研）上級研究員

1970年兵庫県生まれ、1994年京都大学文学部哲学科卒業、2000年同大学院人間・環境学研究所博士課程退学。人間・環境学博士。2006年より地球研勤務。暮らしの“かたち”を問いなおすという視点から、2007-10年地球研で34回の連続公開講座「人と自然：環境思想セミナー」を企画。編著に『ユーラシア農耕史』（臨川書店 2008-10）、共著に『古寺巡礼 高山寺』（淡交社 2009）、翻訳に『たべるとはつながること』（共訳 福音館書店 2009）など。なお、2010年9月より月刊誌『ソトコト』（木楽舎）で連載コラム「21世紀の暮らし哲学」がスタートする。

■ 最終回によせて

質問・メッセージの募集

環境思想セミナー最終回にあたり、これまでのご感想、今回の話し手三人へのご質問・メッセージを募集しています。左記連絡先まで、メールもしくはFAXにてお寄せください。

特製和菓子「in situ」のご試食 無料配布・先着120名様限定 製作：「日月餅」

セミナー当日、環境思想セミナーにちなみ、日月餅が特別制作した和菓子をご試食いただきます。銘の「in situ」は「本来の場所に」を表すラテン語。話し手三人の思いが込められています。

クロージング・パーティー 地球研ダイニングにて 9月24日（金）17:30-19:00 会費：3,000円（要予約）

セミナー終了後に話し手をまじえて気楽な懇親会を開きます。参加ご希望の方は、[氏名, 所属, 人数]を明記の上、左記連絡先までお申し込みください。 ※申し込み締め切り：9月21日（火）

□ お申込・ご連絡先（担当：鞍田）
FAX 075-707-2508 メール kurata@chikyu.ac.jp